

## &lt; 反乱 &gt;

「オーい！これ以上締めつけないでくれ。いい加減に解放してくれよ!!」との悲鳴が聞こえてきた。何やら跨間がむず痒い。

ここは、諫早市唐比温泉センター入口バス停、小浜から 16km 地点だ。慌ててバス停の小屋に飛び込み、辺りに人の気配がないのを確認してランタイツとショーツを下げてみると、タマタマに赤い発疹がいっぱいできていた。昨日の午前中雨に濡れて走り、ランショーツを替えずにいたせいだろう。完全に炎症を起こしている。タマタマの反乱だ。バックパックからオロナインを取り出して塗りたくった。

私のランショーツは以前にも紹介したが、デソトカレラ(トライアスロン用)だ。サイズは M で、程良い厚みのパッドが息子とタマタマを包んでくれて心地よい。締めつけも適度で、彼らは微動だにしない。

ただ、これを一日中穿いていると衛生上は良くない。気温が上がる春には危険だ。まして何日間も続けるのだから、彼らに同情したくなる。本来ならブラリとしていたいただろうが、ここは宥めすかして我慢してもらうしかない。このジャーニーが終わるまでに治まってくればいいが、何回跨間に手がいくか分からんぞ。

3 日目は最長の 75km だ。と言ってもこれは地図上で計算しただけの数字であって、実際はまずその通りにはいかないから、プラス 5km の 80km というのが妥当だろう。てな訳で、今朝は 4:30 に小浜タウンホテルを出た。

月光に照らされた橘湾を左手に 251 号線を北上する。6～7km 進んだ所だろうか、後方から独特のエンジン音「ブロロロッー」、来た！ナガオカ氏の GM だ。すぐにヨロヨロ走りからスタスタ走りに変えた。娘さんがアキレス腱断裂手術をするので、早朝の内に大分に帰らなければならないと言うのだ。凄い行動力だ。頭が下がる。

ジャーニー中に知人に会うことはまずないが、あったとしたらどれだけ元気づけられるだろうか。この朝が正にそれだった。「よし、今日もいけるぞ!」という気になった。

彼にみっともない姿は見せたくない、という思いで変えたスタスタ走りが長崎まで続くことになる。お互いに再会を約束(大分に帰りゃあいつでも会えるがな)し、彼は別れ際にバーやゼリー等の携帯補給品を、ドッサリ私のバックパックに詰め込んで行った。

私は米至上主義だった。「米を腹に入れんことには力が出らん」と言い張り、バーには目もくれなかった。ところが、もらったバーを試してみるとアーラ不思議、イケルじゃあーりませんか。こらあいいわ、おにぎりの様に重くはないし嵩張らないし。

以後朝食と補給には、カロリーメイトか一本満足で OK となった。おっさんは進化しないとね。我を張っとったら置いていかれるよ!!

愛野の 57 号線と 271 号線が交わる三叉路で完全に夜が明けた。ここは 20 年ほど前、トランス九州というレースで走った所だ。広いジャガイモ畑に記憶がある。

トランス九州というのはダブルアイアンマンレースだ。10km 泳ぎ、360km 自転車に乗り、84km 走るのを3日ばかりでやる。ハワイで生まれたものを、九州トライアスロン協議会が九州に持ち込んだ。単なるレースではなく、杵築～長崎へのジャーニーという要素が織り込まれた、ロマン溢れるものだった。

ウルトラランナー達がスパルタスロンの完走を夢見る様に、トライアスリート達にとってこのレースは憧れの的だった。完走すれば誰もからリスペクトされる。

住吉浜の海で10km 泳ぎ、国東半島一周100km のライドで初日は終わり。2日目は、杵築～湯布院～やまなみハイウェイ～一宮～高森～矢部～松橋～三角半島～宇土～熊本～玉名まで260km のライド。3日目は、玉名～長洲港まで走り、有明フェリーで多比良に渡って島原半島を反時計回り愛野おにつかに抜け、251号線を伝っての東側から日見峠を越えて長崎入りし、平和公園の記念像の左足にタッチしてフィニッシュだ。誰が考え出したのかは分からないが、壮大なスケールのレースだった。よく完走したものだ。

唐比温泉センター入口からはなだらかな上りと下りの連続だ。傾斜から曲がり具合まで脚が覚えている。ただ、トランス九州ではどんな坂でも走ったが、ジャーニーランでは上りは歩くことにしている。レースとジャーニーの違いはそこだ。

矢上大橋を渡り、新日見トンネルを抜け、5km ほどだらだらと下って長崎の街へ入ったのはちょうど正午だった。どこかでチャンポンを食べようと思うが、昼食時と相まってどの店も満員だった。長崎は狭い街なので、いつ来ても人が溢れている感じがする。ここはスルーして旭大橋を渡り長崎港の対岸に出たが、こんどは店がない。

気温が上がり跨間がムズムズしてきた。三菱重工の工場沿いにあるバス停のベンチに逆向きに座り、跨間に手を突っ込んでオロナインを塗りつけていたら、背中に何かの気配を感じた。首を回してみると、バスが止まって乗客が皆こちらを見ている。勘弁してくれ! 俺はマスなんかかいているんじゃないぞ。「かいいのおー!!」でたまらんのや。

飽の浦トンネル入口付近でやっと店を見つけた。古い、町の中華屋さん風だった。店内は狭く雑然としていて、老夫妻と息子さんとで経営している。常連のお客さんが一人いた。

チャンポンと瓶ビール大を注文して寛いでいると、息子さんが色々尋ねてくる。一頻り旅の話をする、また来ました、「あなたは学生時代何をしていたのか」だ。「野球、佐伯鶴城」まで応えると、常連の方が野村(謙二郎、現広島カープ監督)のことを訊いた。彼のことはよく知っているので話すと、質問が山中さん(法政大でリーグ48勝、バルセロナ五輪監督、現横浜ベイスターズ専務)にまで及んできた。

山中さんには私が高1の時、直接指導していただいた。一番の収穫はカーブの投げ方だった。「捻らずに顔の前で切る」だ。驚くほど落ちた。以来、この落ちる球が私の決め球となったのだ。試合でこの球は打たれたことがない。私の自慢だった。

彼の法政大学時の投球はほとんどテレビで見た。右打者の外角をかすめるシュートと膝元に落ちるカーブには見惚れた。針の穴を抜くようなコントロールと絶妙な打者との駆け引き、おまけにキャッチャーが田淵選手だからどうにもならない。内野には富田選手、外野には山本浩二選手もいたから48勝も領ける。

このことを熱弁すると、またしても野球談議が満開になった。そこへチャンポンが出てく

る。普通のチャンポン丼鉢に、蒲鉾、竹輪、イカゲソ、キャベツ、もやし等の具がてんこ盛り。味は？やったぜ！昔懐かしの味、これぞチャンポンだった。今まで食べた長崎チャンポンの内が一番旨かった。

長崎は、何処へ行っても野球の話になる。なかなか腰を上げられず、もう1本ビールを頼み、清峰高校や長崎日大高校の話に耳を傾け、店を出たのは結局2時過ぎだった。1時間半ほど店にいたことになる。順調に進んでいたのに、大大休止となってしまった。しかし、これがジャーニーの真骨頂、人と出会って費やす時間ほど貴重なものはない。

残り20km、16:00には到着不可能だ。ビール大瓶を2本も飲んだせいで気分はいいが、跨間がまたムズムズしてきた。トンネル入口にあるトイレで、気合を入れてオロナインを塗り直し2kmのトンネルを抜けた。「もうチョットだけ堪えてくれ、タマタマちゃん!!」だ。

ここから、上っては下る気の遠くなるような岬巡りを何度も繰り返し、目的地の多以良町に着いたのは17時過ぎだった。ところが、宿まであと500mの所で突然の雨。目の前にあったセブンイレブンに飛び込んで傘を買い、靴がずぶ濡れになりながらも「満寿美」にチェックインした。天気予報では快晴だったのに、コノヤロウである。信用ならん。

ところで、セブンイレブン傘はAPO傘で、他のコンビニ傘より大きく頑丈だ。程良い長さでステッキとしても使え、持って走ってもさほど苦にはならず、以来私の相棒になるのである。いつ雨に降られてもOKだが、ピカ天の日に傘を持って走るヤツは私だけだろう。

満寿美に着くと同時に少年野球チームが入って来た。これは早く風呂に入らんとヤバイ(イモ洗い状態)になるぞと浴場に急行し、体を洗って湯に浸かっていると、まず3人の小学生がやって来た。そのまま湯舟に入ろうとするのを制止し、「コラコラ！風呂に入る時は、こうやって先におチンチンを洗って体に湯をかけてから入るんだよ」と自ら手本を示した。

ちゃんと教えれば子供はやる。この子供たちの親はどういう躰をしているのだろう。浴場のマナーは、子が親を真似て身につけるものだ。親がしないと子もしない。情けない。

そう言えば、最近温泉や浴場で「かけ湯をしてお入り下さい」や「タオルは湯舟につけないで下さい」という掲示が目につく。そんなもん、当然のことやけどな。

4人で頭にタオルを乗せて湯舟に浸かる。いい絵だ。「おまいたち、どこから来たんや」「五島から」「五島のどこや」「福江から」「オーっ！おっちゃんは五島アイアンマンに行ったことがあるで」「すげえ!!」等と話が弾んでいたところ、後続組がドヤドヤと入って来た。そのまま入ろうとするのを止めて、先の3人が「入る前に洗え」と教えている。いい教育をしたなあと悦に入っていたら、今度は大きい3人の子がバスタオルを腰に巻いて入って来た。

「オイオイ、そんなもん着けて入っちゃいかんぞ」と私。するとその内の一人が、「僕たち、今日海パンを持っていないんです」と言った。「???」、ギミアブレイク!! どもなりやせん。小中学生が修学旅行で水着を着けて風呂に入る、というのは本当だったんだな。聞いた時は「そんなバカな」と半信半疑だったが、目の当たりにして愕然とした。

親、教師、指導者は、勉強や技術よりもまず、社会的道徳、マナーからしっかりと教えてほしい。こんな調子じゃ世も末だぜ。

これではもう焼け石に水だ。さっさと風呂を飛び出し、隣の回転寿司屋で夕食を済ませた。ジャーニーで回転寿司とは詫びし過ぎるが、居酒屋が近くになかったのだ。

部屋に帰り、タマタマにオロナインをすり込んで「今日は辛かったやろ、ゴメンな。明日からは、頼むから大人しくしとってな」と囁きかけて、布団にもぐり込んだ。

その後の3日間、佐世保～伊万里～唐津～福岡～赤間まで **210km** をカバーした。途中へたらず切れず、ジャーニーランを始めて初めてのパーフェクションだった。

あと **40km** 程で九州の旅は終わる。